

『藤原京右京九条二坊・九条三坊、瀬田遺跡発掘調査報告』の刊行

都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)では、昨年度末に藤原京右京九条二坊・三坊および瀬田遺跡の発掘調査報告書を刊行しました。

この報告書では、2015年度から2016年度にかけて実施した、ポリテクセンター奈良(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構奈良支部 奈良職業能力開発促進センター)の本館建て替えにともなう発掘調査の成果を150頁にわたりまとめています。その成果の第一は、西二坊大路や坪内道路、整然と配された建物群をはじめとする藤原京期の遺構の発見です。

成果の第二は、弥生時代後期末の全長約26mの大型円形周溝墓S Z 4500の発見です。残念ながら、墳丘や墓壇は削平のため残っていませんでしたが、墳丘をめぐる周溝のかたちから、それが「前方後円形」であるとわかり、調査当初から大きな注目を浴びました。また、周溝出土の弥生土器はこの墳墓の年代を考えるうえでもきわめて重要です。この報告書ではおよそ230点もの弥生土器を載せることができました。製図におよそ1年を要した出土状況図も、附図として巻末に綴じてあります。

第三の成果は、縄文時代後期末の土器群の発見です。滋賀里1式の土器は西日本でもまとまった資料の類例が少なく、このたびその貴重な一例をくわえることができました。

この報告書に掲げた資料が、さまざまな方面で活用されることを願ってやみません。

(都城発掘調査部 森川 実)



『藤原京右京九条二坊・九条三坊、瀬田遺跡発掘調査報告』